

令和7年度 江戸川区立一之江学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）【案】

|             |                                    |                                                                                     |                            |                                                                                                                                                 |
|-------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校教育目標      | ◎進んで学習する子<br>○思いやりのある子<br>○明るく元気な子 |                                                                                     | 目指す学校像<br>目指す生徒像<br>目指す教師像 | 保護者・地域の理解と協力を得て、子どもたちに確かな力を育み、信頼と誇りのもてる学校<br>自分から進んで確かな学力、豊かな心、健やかな身体を身に付け高めようと取り組む子ども<br>より質の高い授業、教育活動をめざし、子どもに寄り添い、子どもの喜びや悲しみを自分の喜びや悲しみにできる教師 |
| 前年度までの本校の現状 | 成果                                 | ・情報活用能力育成研究校として、情報活用能力表（一之江モデル）の作成、活用などを進めている。<br>・全体として明るく素直で落ち着いた学校生活を送ることができている。 | 課題                         | ・仮校舎での生活、スクールバス通学が続く中、安心・安全を第一に教育活動を進めることが求められている。<br>・学力、体力ともに二極化傾向が進んでいる。<br>・配慮を要する児童への支援を充実する必要がある。                                         |

| 重点          | 取組項目                      | 具体的な取組内容                                          | 数値目標                               | 達成度 |    | 「中間」<br>自己（学校）評価（A～D） |                                                                   | 「中間」<br>学校関係者評価（A～D） |                                                             | 「年度末」<br>自己（学校）評価（A～D） |      | 「年度末」<br>学校関係者評価（A～D） |      | 次年度に向けた改善案 |
|-------------|---------------------------|---------------------------------------------------|------------------------------------|-----|----|-----------------------|-------------------------------------------------------------------|----------------------|-------------------------------------------------------------|------------------------|------|-----------------------|------|------------|
|             |                           |                                                   |                                    | 9月  | 2月 | 評価                    | コメント                                                              | 評価                   | コメント                                                        | 評価                     | コメント | 評価                    | コメント |            |
| 学力向上        | ○自ら進んで学ぶ態度の育成             | ・習熟度別学習、教科担任制等の実施<br>・1人1台端末の効果的な活用               | ・授業がわかりやすいという児童90%以上               | 92% |    | A                     | ・授業の工夫がされているという教員91%<br>・ICTを活用した授業も定着してきた                        | A                    | ・1人1台端末が子どもたちに定着している<br>・学ぶ意欲を高める工夫を重ねてほしい                  |                        |      |                       |      |            |
|             | ○基礎学力及び学習習慣の定着            | ・学び方スタンダードによる学習習慣の定着<br>・区、国の学力調査の活用<br>・放課後補習の実施 | ・学力を高めようとしているという児童90%以上            | 91% |    | B                     | ・学力向上の取組が推進されているという教員83%<br>・定着度の個人差、学年差が大きい ポイントを絞った改善策を進めたい     | B                    | ・一人一人が自分の目標をもてるようになることを期待したい<br>・補習なども活用しながら、基礎学力を定着させてほしい  |                        |      |                       |      |            |
|             | ○読書科の更なる充実                | ・探究的な学習（調べ学習）の推進<br>・学校図書館活用の充実                   | ・学校や家で本をよく読むという児童70%以上             | 71% |    | B                     | ・読書指導が適切という教員78%<br>・調べてまとめる学習の充実を推進したい                           | B                    | ・端末を活用し、またスマホが生活の一部になっている時代の「読書」のあり方が問われている                 |                        |      |                       |      |            |
| 体力向上        | ○自らすすんで体力を高めようとする態度・意欲の向上 | ・体力テストへの取組<br>・なわ跳びの推進                            | ・体力を高めようとしているという児童85%以上            | 94% |    | B                     | ・体力向上の活動が充実という教員70%<br>・制約の多い環境の中で工夫を重ねている                        | B                    | ・仮校舎という厳しさがある中、さまざまな取組、工夫が進められている                           |                        |      |                       |      |            |
|             | ○自らすすんで健康・安全な生活を送る力の向上    | ・歯の健康にかかわる取組の推進<br>・多彩な給食の実施                      | ・健康な生活を送ろうとしているという児童80%以上          | 91% |    | A                     | ・健康への取組が適切という教員87%<br>・歯の健康にかかわる取組なども計画的に進めている                    | A                    | ・健康、食生活など家庭への啓発、連携がさらに進んでいくとよい                              |                        |      |                       |      |            |
| 実現に向けた教育の推進 | ○個に応じた指導の充実               | ・巡回指導をはじめとする人材、資源等の活用<br>・校内委員会を中心とした支援の充実        | ・配慮を要する児童への支援が適切に行われているという教員80%以上  | 96% |    | A                     | ・スクールカウンセラーなどが活用されているという教員100%<br>・組織的な対応に努めている。                  | A                    | ・さまざまな支援の形があるようだが、担任の負担が大きいのではないか<br>・新たな形の学級など多様な支援が進むとよい  |                        |      |                       |      |            |
|             | ○日本語指導の充実                 | ・日本語学級での指導の充実<br>・理解啓発の促進                         | ・配慮を要する児童への支援が適切に行われているという教員80%以上  | 87% |    | A                     | ・日本語学級での指導を円滑に進めている。<br>・指導担当者と学級担任との連携を密にしながら指導・支援にあたっている。       | A                    | ・外国籍の子どもが増加するなど、多様な子どもが通学してくる中、学校外の資源も活用した支援の充実がより必要になってくる  |                        |      |                       |      |            |
| 不登校の・充いめ対応  | ○豊かな心の育成                  | ・委員会活動や係・当番活動、異学年交流などの充<br>・豊かな感性、情操の育成           | 当番や係活動、委員会活動に進んで取り組んでいるという児童90%以上。 | 92% |    | A                     | ・児童が積極的に取り組めるよう委員会などが運営されているという教員96%<br>・行事等も児童の実行委員会を設置するなどしている。 | A                    | ・子どもの声を活かした教育をさらに進めてほしい<br>・誰かの役に立つという経験を子どもたちに積ませていきたい     |                        |      |                       |      |            |
|             | ○健全育成の推進                  | ・いじめ、不登校への組織的取組の推進<br>・基本的生活習慣の系統的な育成             | ・相手の気持ちを考えて行動しているという児童85%以上。。      | 73% |    | C                     | ・いじめ、不登校解消に向けた取組が行われているという教員87%<br>・重篤ないじめの状況はみられていない             | B                    | ・一人一人に応じた支援、対応を進めていくためには学校外とどう連携できるかが大切<br>・いじめの未然防止に努めてほしい |                        |      |                       |      |            |

|                                |                        |                                                |                                       |     |  |   |                                                             |   |                                                     |  |  |  |  |  |
|--------------------------------|------------------------|------------------------------------------------|---------------------------------------|-----|--|---|-------------------------------------------------------------|---|-----------------------------------------------------|--|--|--|--|--|
| 学校（園）の<br>開かれた<br>地域社会に<br>の実現 | ○積極的な情報発信              | ・学校のホームページの毎日の更新<br>・全校保護者会、学校説明会等の充実          | ・学校はホームページ等で積極的に情報発信をしているという保護者80%以上。 | 91% |  | A | ・保護者等に積極的に情報発信しているという教員100%<br>・ホームページの更新を毎日継続している。         | A | ・ホームページをはじめ積極的な発信が進んでいる<br>・学区を離れているからこそ発信を大切にしてほしい |  |  |  |  |  |
|                                | ○安心・安全な学校づくりの推進        | ・さまざまな災害等を想定した訓練の実施<br>・食物アレルギーへの対応を含めた事故防止の徹底 | ・地震や火災のときの自分の身の守り方がわかるという児童90%以上。     | 95% |  | A | ・防災・防犯等の取組が適切という教員96%<br>・食物アレルギーへの対応も適切に進めている。             | A | ・バス通学の中での防災・防犯の難しさはあるが、さまざまな状況を想定した準備に努めていくことが大切である |  |  |  |  |  |
|                                | ○家庭、地域とともに子どもを育てる教育の推進 | ・PTAとの連携・協働の推進<br>・学校評価の充実                     | ・学校は、意見や要望等を教育活動に生かしているという保護者80%以上。   | 72% |  | B | ・保護者からの相談に誠実に対応という教員96%<br>・保護者の率直な意見を受け止め改善を図る体制の充実に努めている。 | B | ・これからの時代のPTAのあり方について、学校、保護者、地域等との協議などもできるとよい        |  |  |  |  |  |
| 教育の<br>特色ある<br>展開              | ○教員の資質・能力の向上           | ・教員一人一人のニーズに応じた研究・研修の推進<br>・授業改善の推進            | ・資質・能力の向上に努めているという教員80%以上。            | 96% |  | A | ・校内研究が充実という教員87%<br>・都の情報教育にかかわる研究校としての取組を進めている。            | A | ・教育は個々の教員の力によるところが大きい　その力量アップをさらに進めてほしい             |  |  |  |  |  |
|                                | ○働き方改革の推進              | ・会議等の効率化、組織改革の一層の推進<br>・ペーパーレス化の一層の推進          | ・時間外勤務の縮減に努めているという教員80%以上。            | 91% |  | A | ・ペーパーレス化が進んでいるという教員96%<br>・会議等が効率的に運営されている。                 | A | ・何が本当に大切なのかを見極めていくことが大切であり、それを踏まえて効率化を進めてほしい        |  |  |  |  |  |